

の子習をしてごらんと注文にたいして
book, book, book, book……と同じ
単語を10個ずつノートいっぱいに書きました。
おそらく、小学校のときは杉 杉 杉……
とやっていたのでしょう。

ある日、小学校2年生の女の子の父親と
話をしました。算数ができなくて困って
いました。家でもみてあげましたが、うまく
いきません。ところが、熱心な担任が、勉
強の遅れがちな子を放課後教えてくれると
いうので、学校ではどのように教えるのか、
参考のために見物に行ったとのことでした。

「あれは詐欺だ。素人と同じだ」
との印象をこの父親は抱きました。教師は
プリントを配り、問題を解かせ、時間がき
たら正答を言って、点数を計算させたので
す。100点の子に手を挙げさせました。

学力の向上が急務とされています。大学
の進学率で他県に負けないようにとの国体
並の競争心の鼓舞の是非はともかくとして、
個々の子どもが確かに学んだとの自覚をも
てるようになることは、授業の基本です。
そこで、本稿では授業について2つの提言
をしたいと思います。

2 細やかな授業

これまで授業の質を検討するとき、教師
が教材をいかに伝えるかが問題とされてき

ました。教師がOHPなどを駆使して、熱
心に語りかけ、子ども達が元気よく挙手し
て答える。それで、質の高い授業とは言え
ないでしょう。教師が語れば子どもは聞いて
くれ、子どもが聞いてくれれば情報が伝
わるというように単純にはいかないからで
す。学習クリニックの子ども達の場合も、
これまでの授業の視点に立てば、教師が下
手だったとは言えないのです。でも、子
ども達は教師の期待どおりには学んでいない
のです。授業は、子ども達が学ぶことがで
きて、初めて成功したといえるのです。

そこで授業の質を検討するとき、授業の
視点を子ども達がいかに学ぶかという学習
の過程に合わせるが必要になります。
また、子ども達自身にこの学習の過程を知
らせて、教師が子どもの学習の状況を絶え
ず把握するだけでなく、子どもが自分の学
習の状況を自己モニターリングでき、次の
学習のステップを見いだせるようになるこ
とが必要になります。このように、個々の
子どもの学習の成立にたいして細かな心配
りがなされる授業を『細やかな授業』と名
づけてみました。

子ども達の学習過程についてはガニエの
『授業のための学習心理学』のモデルが参
考になりますが、簡単に①気づきの段階、
②取り込みの段階、③習熟の段階、④実行